古典芸能研究センターからのお知らせ

公開研究会「古典芸能研究の横断と総合」

神戸女子大学古典芸能研究センターは、平成29年11月25日（土）に公開研究会「古典芸能研究の横断と総合」を開催し、約60名の参加者を迎える盛況となりました。

午前は、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長 時田アリソン氏の講演「世界の中の日本芸能」でした。平家物語、浄瑠璃といった語り物に焦点をあて、日本以外のイタリア、韓国、中国など世界各国にも語りの伝統が存在することを紹介した上で、日本の語り物の特徴についての興味深い指摘がなされました。

午後のシンポジウムは、公開研究会のテーマである「古典芸能研究の横断と総合」について、各分野の研究者を交えて発表と討論を行いました。

名古屋大学大学院文学研究科教授 阿部 泰郎氏は、本学の故 伊藤正義名誉教授の研究業績に言及しつつ、特に金春禅竹の言説を取り上げて、中世芸能の宗教的背景についての見解を発表をしました。

京都造形芸術大学舞台芸術研究センター所長 天野 文雄氏は、能楽研究の現況についての解説の後、『風姿花伝』第五奥義を取り上げ、「奥義」が持つ意味を指摘、そこから見える『風姿花伝』の構造や成立事情、世阿弥にとっての「秘伝」意識について発表しました。

神戸女子大学古典芸能研究センター長 川森 博司教授は、東北地方のなまはげや沖縄のミルク神などの来訪神に関わる儀礼を紹介し、折口信夫や岡本太郎の言説を引用しつつ、民俗芸能の視点から古典芸能のあり方を探ることが可能ではないかという提言をしました。

討論は、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授 藤田 隆則氏の司会により、発表者３名に時田氏も加わって行われました。藤田氏の巧みな主導のもと、それぞれの立場から古典芸能研究に関するさまざまな視点について活発な意見が交わされました。

京都市立芸術大学
日本伝統音楽研究センター
所長 時田アリソン氏

京都造形芸術大学
舞台芸術研究センター所長・
古典芸能研究センター客員研究員
天野文雄氏

名古屋大学大学院
文学研究科教授・
古典芸能研究センター客員研究員
阿部泰郎氏

京都市立芸術大学
日本伝統音楽研究センター
教授 藤田隆則氏

この公開研究会は、平成25年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された古典芸能研究センターの研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」の一環として開催しました。

展示「近代神戸の能楽～大正・昭和初期を中心に～」

平成29年11月20日（月）～平成30年１月19日（金）に、古典芸能研究センター展示室で、展示「近代神戸の能楽～大正・昭和初期を中心に～」を開催しました。この展示では、モダンな港町として知られた神戸が、大正から昭和初期にかけて謡の盛んな街であったということを、所蔵資料や写真を通じて紹介しました。センターでは、地元の研究機関として、近代神戸の能楽に関する資料を積極的に収集しています。それをもとに、これまで、戦前に神戸にあった能楽堂や、神戸で刊行されていた能楽専門誌をとりあげた展示を行いました。今回は、その内容に新たに収集した資料を加えて、当時は珍しかった能楽堂以外での能の公演や、雑誌記事からうかがえる能の観客層の広がりなどにも触れつつ、自由で新しい当時の神戸の能楽事情を紹介しました。展示の情報は、テレビ・ラジオ・広報誌などで地域に紹介され、大勢の見学者を迎えました。

展示「志水文庫の大津絵と大原神社の絵馬「踊り子図」」

平成30年２月５日（月）～３月30日（金）に、展示「志水文庫の大津絵と大原神社の絵馬「踊り子図」」を開催しました。この展示では、センター所蔵の志水文庫の大津絵と大津絵に関わるいくつかの演劇資料を組み合わせ、あわせて京都府福知山市にある大原神社のご厚意により、同神社所蔵の貴重な絵馬「踊り子図」（福知山市有形民俗文化財）も展示しました。

志水文庫の旧蔵者で本学名誉教授の信多 純一先生は、近松門左衛門作の浄瑠璃『傾城反魂香』についての論考の中で、文中に現れる大津絵の画題に言及、以後、大津絵に深い関心を寄せられてきました。その集大成である著書『祈りの文化―大津絵模様・絵馬模様』（思文閣出版 平成21年）で、「藤娘のルーツ」として紹介されているのが、今回展示した大原神社の絵馬でした。大津絵は、京都と近江の境である追分の地で近世以来土産物として売られていた素朴な絵画ですが、近年、展覧会の開催や美術雑誌での特集など、再び脚光を浴びつつあります。こうした動きの中で開催したこの展示には、全国から研究者や愛好家も迎えて盛況でした。

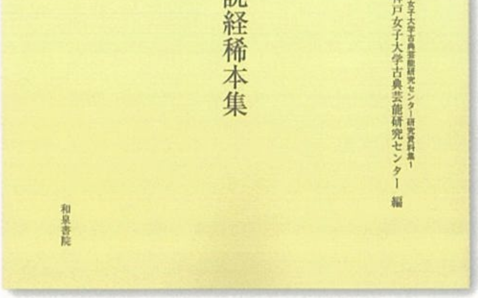
大原神社蔵 絵馬「踊り子図」
（福知山市有形民俗文化財）

平成30年
3月刊行

神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集１

『説経稀本集』

古典芸能研究センターでは、学内外の貴重資料を紹介する「神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集」の刊行を開始しました。第１冊目となる『説経稀本集』は、平成28年度刊行の『説経 人は神仏に何を託そうとするのか』（神戸女子大学古典芸能研究センター叢書３）を補う資料集です。ドイツ・フランクフルト市立工芸美術館蔵フォーレッチ・コレクションの奈良絵本や個人蔵の稀書を収めています。



和泉書院　本体価格 3,800 円

平成 30 年度 科学研究費助成事業採択状況

平成30年度の科学研究費助成事業について、本学園の採択件数は大学36件（継続29件、新規７件）、短期大学２件（継続２件）でした。科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的資金」であり、ピアレビューにより、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

平成30年６月現在

研究種目	研究代表者	研究課題名
基盤研究(B)	家政学部・教授　砂本 文彦	日本統治期朝鮮の貸家と都市構造に関する研究
基盤研究(C)	文学部・教授　小原 依子	リハビリテーション病院における音楽療法の効果判定と技法開発のための実践的研究
基盤研究(C)	家政学部・教授　山根 千弘	コットンギャップを埋める再生セルロースの構造設計と制御
基盤研究(C)	看護学部・教授　玉木 敦子	地域母子保健における周産期うつ病の予防的介入に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・准教授　木村 万里子	いんげん豆類に含まれる高機能性オリゴ糖の探索とその構造解析
基盤研究(C)	看護学部・教授　加治 秀介	Y2受容体発現を指標とする脂質異常症改善栄養素・薬剤の探索
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授　糸井 亜弥	児童の身体活動量、16～20年後の変化(都市部・農村部の同一小学校における調査)
基盤研究(C)	文学部・教授　田中 美紀子	カントの批判哲学から晩年の思想への発展−『オプス・ポストゥムム』の全訳に向けて
基盤研究(C)	文学部・教授　安原 順子	日本語教員養成と日本語学習者のため双方向学習プログラムの研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授　植戸 貴子	中高年知的障害者と高齢の親の同居家族への相談支援：障害分野と高齢分野の有機的連携
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授　小笠原 慶彰	近代神戸において社会事業の展開に寄与した人物に関する研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授　佐藤 誓子	特別支援学校における摂食・嚥下障害を有する児童・生徒に対する給食整備に関する研究
基盤研究(C)	看護学部・講師　馬場 敦子	外来通院中の高齢糖尿病患者のフレイルを改善・予防するマネジメントプログラムの開発
基盤研究(C)	看護学部・教授　下敷領 須美子	短期母乳栄養を選択したHTLV−1陽性妊産婦への訪問助産師による継続支援の開発
基盤研究(C)	看護学部・教授　藤田 冬子	介護者のためのエンハンスメント・プログラム活用による在宅療養支援
基盤研究(C)	幼児教育学科・准教授　畠山 由佳子	子ども虐待ケースに対する区分対応システムでの支援型対応実践モデルの開発的研究
基盤研究(C)	文学部・准教授　久野 和子	「公共空間」としての図書館の先進的研究
基盤研究(C)	家政学部・教授　置村 康彦	分岐鎖アミノ酸と成長ホルモンによる筋委縮抑制作用の分子機構の解明
基盤研究(C)	看護学部・准教授　丸山 有希	小中学校におけるけいれん発作対応に関する教育プログラム開発と効果の検証
基盤研究(C)	文学部・教授　今井 修平	西播磨小藩・旗本領における領主支配と地域社会構造の歴史的研究
基盤研究(C)	文学部・教授　大西 雅裕	母子家庭に関する貧困問題対策の実証的研究　−母子家庭支援策の構築を目指して−
基盤研究(C)	看護学部・講師　藤原 由子	アトピー性皮膚炎患者が治癒するときの「身体性の変化」を支える方法の開発
基盤研究(C)	看護学部・教授　内 正子	慢性疾患をもつ小児のためのクリニックにおける地域生活型看護ケアプログラムの開発
基盤研究(C)	看護学部・准教授　笹谷 真由美	特別養護老人ホームにおける看護実践能力尺度の開発と検証
基盤研究(C)	幼児教育学科・准教授　永井 久美子	保育職におけるバーンアウトの影響要因についての探索研究
基盤研究(C)	**文学部・教授　狩野 恭**	**アビダルマ以後における仏教的存在論と恒常的存在の存在論証との論争の系統的研究**
基盤研究(C)	**文学部・教授　森 尚也**	**サミュエル・ベケットにおけるモナド的運動：身体運動からイメージ運動、〈流動〉へ**
基盤研究(C)	**文学部・准教授　岡墻 裕剛**	**近代日本における漢字集合の字種・字体の変遷**
基盤研究(C)	**家政学部・教授　後藤 昌弘**	**低温スチーミングによる野菜類の加熱調理条件と食味および栄養成分の関連について**
基盤研究(C)	**家政学部・教授　梶木 典子**	**移動型遊び場（モバイル・プレイ）による子どもの外遊びの推進と都市公園の利活用**
基盤研究(C)	**看護学部・教授　洪 愛子**	**専門看護師と認定看護師が提供する看護サービスのアウトカム評価指標開発**
基盤研究(C)	**看護学部・准教授　田村 康子**	**モロッコにおける産痛緩和ケアに関する助産師基礎教育モデルの開発**
挑戦的萌芽研究	健康福祉学部・准教授　清水 弥生	認知症の人の生活ニーズを中心とした生活支援モデルの構築
挑戦的萌芽研究	家政学部・教授　砂本 文彦	農地転用メカニズムとしてみた軍港都市の形成と地域社会の応答に関する研究
若手研究(B)	文学部・准教授　本田 隆裕	空範疇・空演算子に対する英語前置詞と日本語格助詞の平行性
若手研究(B)	健康福祉学部・准教授　川端(木下) 麗子	高齢外国籍住民の集住地域における「多文化共生型相互支援モデル」の構築
若手研究(B)	看護学部・助教　奥井 早月	2型糖尿病患者への治療中断防止の支援モデルの開発
研究活動スタート支援	看護学部・助教　鷲田 幸一	慢性心不全患者の療養環境・療養行動・QOLに関する調査

※ゴシック文字は今年度新規採択（7件）

科学研究費助成事業に採択された研究紹介

リハビリテーション病院における音楽療法の効果判定と技法開発のための実践的研究

研究期間：平成 27 ～ 30 年度
研究種目：基盤研究（C）

神戸女子大学 文学部 教育学科 教授 小原 依子

誰しもいろんな形で音楽に親しんでおられると思います。好きな音楽を聴いたときのあの染み入る感じも身近なことではないでしょうか。音楽は、「聴覚刺激」という媒体であるからこそ、心身への作用が大きいことが特徴です。その作用については、脳波・心拍・筋電図・皮膚電気反射…といったポリグラフ研究手法や、サーモグラフィー、重心動揺計などさまざまな生理指標を駆使して、生体反応の変化を捉えることを試みてきました。同時に我が国の動向としては、音楽療法の需要が高まる中、平成13年に「日本音楽療法学会」が設立され、音楽療法の治療効果についての科学的根拠も強く求められるようになっていきました。いわゆる医学モデルでのEBM（evidence based medicine）です。臨床心理学を専門としている立場からも、音楽療法において今後求められてくる大きな課題は「効果判定」の問題であろうという問題意識にたち、これを現在も追究し続ける研究テーマの一つとしています。そこで平成13年より音楽療法独自の治療構造を反映した『心身障害者用：音楽療法評価表（MTCL-YK：Music Therapy Check List-YK version)』の開発に着手し始めました。同じ頃、阪神淡路大震災を経験した兵庫県では、その復興への過程の中で、命の尊厳の重要性に立ち返るそれぞれの思いの中に“音楽の果たす役割”への願いが高まり、音楽療法推進事業が立ち上げられました。そして、この評価表開発研究を「兵庫県こころのケアセンター」（平成17年度）・「兵庫県健康生活部」（平成18 ～ 19年度）（日本生命財団助成）での音楽療法研究の中心的テーマとしたいという依頼があり、兵庫県における実践研究の座長を務めさせていただくこととなりました。そうして県下の医療・福祉施設における大所帯の実践的共同研究のスタイルが確立していきました。ここでは特に高齢者領域での音楽療法の需要の高まりから、『高齢者対象用：音楽療法評価表（MTCL-YK（S））』の開発を試み、その成果を報告しました。このような経過の中で、さらに医療領域での音楽療法の評価指標に着手する必要性が見いだされ、「兵庫県立リハビリテーション中央病院」での共同研究を進めることになりました。“あらゆる精神機能の基盤とされる「注意」機能”への有効な音楽療法技法確立を目指し、『注意障害対象用：音楽療法評価表（MTCL-YK（DOA））』の開発（注）を行いました。MTCL-YK（DOA）は信頼性・妥当性検証を重ね実用化の段階に入っています。また、パーキンソン病の治療やリハビリテーションにおいて音楽療法の有効性が検証されてきている現在、パーキンソン病対象の音楽療法技法とその効果判定の評価表（MTCL-YK（PD））の開発を進めています。

音楽療法において“多様な疾患・障害に合わせた評価法として統一されたもの”は、我が国においては未だ模索段階であり、これらの確立は音楽療法の治療的理論構築、技法開発がなされていくことへの基本的要件であると考えます。地道な作業の積み重ねの研究ではありますが、この課題に向けて、今後は開発した評価表の実施マニュアル作成を目指しています。

学部のゼミ生に音楽療法の説明をする小原教授

大学院生と学部生との共同研究：サーモグラフィーを用いた実験風景

（注）「リハビリテーション病院等における音楽療法の効果判定に関する実践的研究」（基盤研究（C））平成21～24年度

健康栄養学研究科　第一期生飛び立つ

神戸女子大学健康栄養学研究科 健康栄養学専攻修士課程は平成28年４月に、健康福祉学部健康スポーツ栄養学科を基礎学部として開設されました。同学科から４名の学生が進学し、栄養学を中心に捉えた「健康」をキーワードに横断的な研究を行い、健康を構成する主要な要素である「栄養」と「運動・スポーツ」をベースとした修士論文を作成、全員が修士課程を修了し、平成30年３月16日（金）の学位記授与式に初めての修了生として学位記を手にしました。

今後も研究を続ける修了生、培った専門知識を生かす職業に就く修了生など「健康栄養学」に精通した人材として今後の活躍が期待されています。

健康栄養学研究科修士論文題名

- ●骨粗鬆症モデルマウスにおけるマグネシウム、銅、亜鉛摂取による骨代謝への影響（新垣 あやね）
- ●γ-シクロデキストリン包接R-α-リポ酸やクルクミンの生体への影響 －運動パフォーマンス並びに同位体比の変動から（橋本 優希）
- ●糖質制限食を高たんぱく質食で補った際の生体への影響 －植物性たんぱく質と動物性たんぱく質の違いから－（宮崎 真未）
- ●居住形態が異なる高校生硬式野球部員の食生活の検討（安原 叶）

健康栄養学研究科長の吉川豊教授と記念撮影

家政学研究科の大学院生が平成30年度笹川科学研究助成を獲得

神戸女子大学家政学研究科 生活造形学専攻 博士前期課程　白川 未希子さん

研究課題「都市公園を活用した移動型遊び場のあり方に関する研究」

研究室でデータをまとめる白川未希子さん

白川さんは、神戸女子大学家政学部 家政学科在籍中、安心して快適に暮らす社会の実現を目指し、人と環境にやさしく、持続可能な住空間や地域空間について専門的に学ぶ住空間コースを選択し、地域居住学や都市計画を専門とする梶木 典子教授の指導の下、安全マップ活動について研究しました。その後、子どもが屋外で自由に遊べる環境が年々厳しくなっていることを憂慮し、子どもの遊び、遊び場について研究したいと考え大学院に進学しました。

学業や習い事に追われている現代の子どもたちは、遊ぶ時間や仲間、特に屋外で遊ぶ場所が少なくなっています。全国的に遊び場として使われなくなった公園が老朽化するという問題も発生し、公園での禁止事項は増加し、子どもの自由な遊びも制限されていく状況です。

子どもにとって自由で豊かな遊びをするということは、主体性、自己防衛本能、身体能力、道徳観、社会性を身に付けるために必要不可欠なものです。

白川さんは、子どもたちの遊びを見守り、相談相手にもなる「プレイワーカー」とよばれる大人が自動車に遊び道具を乗せて各公園に遊びを出前する移動型の「プレーパーク」に焦点を当て、子どもの自由な遊びを保証し、使われていない公園の有効活用を提案する研究内容が評価され、研究助成を受けることになりました。

この研究の成果があがると、都市公園が自由な遊びや放課後の居場所となり、公園の有効活用やまちづくりにも寄与することにつながります。

梶木典子教授（左）から研究指導を受ける白川さん

イギリス　ケント大学　留学生紹介

4月12日（木）から2週間、イギリスのケント大学から「イギリス・ケント大学生短期受入れプログラム」の第4期生として、Janee Gagnon（ジャネー ガンニョ、以下ジャネーさん）が来日し、日本語、日本文化を学びました。

これまでのケント大学の短期受入れプログラムは須磨キャンパスのみで行われましたが、今回初めてポートアイランドキャンパスでも健康福祉学部、看護学部の学生と交流する機会が設けられました。

ジャネーさんは、12日に中島 實学長をはじめ、部局長の教職員に挨拶をし、図書館のライブラリー・コモンズで開催されたウェルカム・パーティーに出席し、集まった学生たちに日本語で自己紹介をしました。

ジャネーさんは、ケント大学でアジア学と考古学を専攻していますが、叔母さんが日本で英語を教えていたことがあり、子どもの頃から日本語と日本文化に興味を持っていました。日本の歴史にも関心があり、休日には、生田神社、姫路城、伏見稲荷大社等に行きました。将来は考古学の研究をしたいというジャネーさんは日本の大学院に進学したいと考えています。その前に、日本への理解を深めるためにこのプログラムに参加しました。留学生向けに開講している「日本語」の授業では、他の国の留学生と一緒に日本語を学び、さらに文学部日本語日本文学科の専門科目「古典芸能講読」を受講し日本の伝統芸能に触れました。

全学共通教養科目「基礎演習Ⅱ」（野口和美教授担当）の授業で受講生からケント大学について質問を受ける

全学共通教養科目の授業にも出席し、ケント大学と大学のあるカンタベリーの町についてパワーポイントを使いプレゼンテーションを行いました。広々とした美しいキャンパスに充実した施設のあるケント大学や有名な歴史的建造物であるカンタベリー大聖堂などの説明をきいた受講生の中にはケント大学へ留学したいと思う学生も出てきました。

日本語を学ぶ授業に加えて、日本語日本文学科の学生がチューターを務めて、ジャネーさんの学びを助けました。ランチタイムには「英語で話そう！」という時間があり、さまざまな学科の学生が集まり会話を楽しみました。課外活動では、華道部、弓道部、剣道部の練習に参加し、明るく親しみやすいジャネーさんの周りには、常に学生が集まりました。

ケント大学のプレゼンテーションを行うジャネーさん

ランチタイム「英語で話そう！」の時間の様子

このプログラムの母体となった文学部英語英米文学科の専門科目では各教員のティーチング・アシスタント役になり、学生の英語理解に貢献してもらいました。

短い期間ではありましたが意欲的に日本語を学び、積極的に日本の文化に触れ有意義な時間が過ごせたようです。

健康スポーツ栄養学科の学生に卵焼きを教わるジャネーさん（左）

各クラブで日本の文化を体験しました。華道部・剣道部・弓道部

交流年表
《姉妹提携など》

1983年　ハワイ大学（米国）
1993年　ケント大学（英国）
1997年　フライブルク大学（独国）
2000年　華南師範大学（中国）
2006年　オークランド工科大学（ニュージーランド）
2006年　ピッツァー大学（米国）
2010年　ウダヤナ大学（インドネシア）
2010年　西安工程大学（中国）
2010年　カセサート大学（タイ）
2010年　高麗大学（韓国）
2011年　チェンマイ大学（タイ）
2011年　カリフォルニア州立ポリテクニック大学ポモナ校（米国）
2014年　静宜大学（台湾）
2017年　アイルランガ大学（インドネシア）

神戸女子短期大学　ウエディングドレスショー

平成30年1月16日（火）に、ポートアイランドキャンパスにおいて、神戸女子短期大学の古田 貴美子講師が担当する総合生活学科・被服製作ゼミの学生11名による「ウエディングドレスショー」を開催しました。

被服製作ゼミでは一年かけて学生一人ひとりがデザインを考案、生地選びから縫製まで行い、ウエディングドレスを作り上げます。その集大成としてウエディングドレスショーを行っています。

ショーでは６名の男性教員が学生をエスコートしました。学生たちは、色とりどりの鮮やかなドレス、バックスタイルにも工夫を凝らしたドレスなど、それぞれの思いの詰まった優雅なドレスを身に纏って登場。集まった多くの学生や教職員から感嘆の声とともに多くの拍手が送られました。これらのドレスは、制作展「ブルーム展」にも展示されました。

ショーの後、全員で記念撮影、右端が古田貴美子講師

神戸女子短期大学　創造性をかたちに　第20回ブルーム展

平成30年1月27日（土）から２月１日（木）まで、神戸市中央区のTOR GALLERY（トア・ギャラリー）にて「第20回ブルーム展」を開催しました。

この作品展は、神戸女子短期大学の総合生活学科・食物栄養学科・幼児教育学科に所属する学生が、授業やゼミで制作したさまざまな作品を展示する制作展です。他学科の学生の作品を一斉に見る事ができるので、学生たちからも好評の展示会です。今回はウエディングドレスや絵本、手工芸品など約140点の作品が展示されました。

展示会初日、会場で受付を担当していた総合生活学科の学生は「マナーポスター」を作成し出品。「多くの人に駅や電車でのマナーを考えてもらえたら」と構想を練り完成まで一年をかけた作品を多くの来場者の方に見ていただきました。作品へのお褒めの言葉や感想は学生にとって大きな励みになっています。

展示された作品

神戸女子大学家政学部 家政学科 地域の魅力と活性化へ向けたパンフレット作成

● 都市デザイン演習で「須磨浦」の可能性を引き出す

家政学部家政学科の平成29年度後期の授業「都市デザイン演習」（担当：梶木 典子教授）の受講生29名が、地元の須磨浦の活性化のために個性溢れるクリエイターたちに集まってほしいという願いのこもったパンフレット「クリエイターが集まるパンフレット」を作成しました。この授業では、多様化している都市の課題に向き合い、そこに暮らす人びとの生活を魅力あるものにするために今後の都市のあり方を考えています。

完成した「クリエイターが集まるパンフレット」6枚が一つのクリアホルダーに入っている

JR神戸線の須磨駅で電車を降りると目の前に広がる須磨海岸。その海岸に沿って東西にのびる商店街。そして、須磨の名所旧跡、景勝地に隣接する「須磨浦」は、駅前の開発が相次ぐ市街地のなかで何十年もその姿が変わらず、どことなく懐かしさを感じさせる街です。創造的な仕事をしている起業家「クリエイター」の皆さんに「須磨浦」を紹介し、その魅力をさらに引き出してもらい街の活性化につなげようという目的で今回の授業は始まりました。

作業の工程では６グループに分かれ、それぞれのグループでまず自分たちの視点で「ここにしかない」ものを求めて須磨浦を隅々まで歩く実地調査を開始し、各グループは、独自の視点で「須磨浦」の魅力を発見。各グループのキーワードは、動物、須磨浦に溢れる色、鉄道、海を楽しむ生活、写真撮影のスポット、浜辺に広がるお店マップなど、多彩なものに。発見した魅力をグループごとにプレゼンテーションを行い全員で相互評価をして、伝え方や見せ方のブラッシュアップを繰り返し各グループが１枚のリーフレットにまとめました。６枚のリーフレットが出来上がりそれを一つのクリアホルダーに入れ「クリエイターが集まるパンフレット」が完成しました。

完成したパンフレットを手に梶木典子教授（中央）を囲んで笑顔の学生たち

● 兵庫区の魅力を発信「ぶらり散策マップ」作成に協力 家政学科砂本研究室×明石工業高等専門学校

家政学部家政学科の砂本 文彦教授の研究室では、神戸市兵庫区役所まちづくり課と共同で散策マップ「兵庫区・平野界隈」と「兵庫区・ノエビアスタジアム神戸界隈」を作成。平成30年３月から同区役所や中央区の総合インフォメーションで配付されています。

散策マップ「兵庫区・平野界隈」と「兵庫区・ノエビアスタジアム神戸界隈」

歴史や産業遺産からグルメに至るまで、既存の価値観にとらわれず、さまざまな情報を発信する新しい感覚の散策マップを作るという観点から、兵庫区域住民以外の若者の視点を取り入れることになり、住生活文化学が専門の砂本教授に兵庫区役所から協力を依頼されこのコラボレーションが始まりました。同研究室のゼミ生3・4年生９名と国立明石工業高等専門学校 専攻科建築・都市システム工学専攻で同教授が授業を担当した「都市景観計画」の受講生１年生16名が一緒になって平成29年８月から12月の期間に、ワークショップ、まちあるき等を実施しマップづくりに参加しました。

散策マップを手に笑顔のゼミ生

このコラボレーションで、ワークショップを提案し、まちあるきのルールを作り指揮を執ったのは、砂本研究室の美馬 優子さんです。美馬さんは紹介マップ作成のためのより効率的な作業工程を研究し、魅力のあるスポットや更なる観光資源を発見するためには、グループの中でのコミュニケーションが活発に図れる雰囲気が必要であるという研究成果を卒業論文にまとめました。

自分たちの感性を盛り込んだ散策マップが、多くの人々に役立ち、街の活性化につながることを学生たちは願っています。（学生の年次は当時のもの）

学位記授与式に完成が間に合った散策マップを手にした美馬優子さんと砂本文彦教授